

団 体 名	NPO 法人丸瀬布昆虫同好会
事 業 名	武利川の生物を知り、それを保存する活動

NPO法人丸瀬布昆虫同好会は、北海道e-水プロジェクト助成金で、子どもたちが地域の武利川の生物を知り、それを保全する活動を実施しました。

武利川は、昨年の台風で大きな被害を受けました。2年生以上は、昨年復旧活動を体験しました。5月の1回目の活動では、白滝ジオパーク学芸委員により「災害と生きものの生活について」を学びました。まだ復旧されずキャンプ場はまだ荒れたままですが、すぐそばの川には、もう水生昆虫やウチダザリガニが採取でき、生きものが戻っている様子に子どもたちは驚いていました。その中でも、ウチダザリガニは、昨年以上に見つかり、繁殖力の強さに驚かされました。



武利川の水生生物を調べる活動では、同好会会員が事前に調査を行いました。当日は子どもたちが川に入り、水生生物やウチダザリガニを採取しました。すぐにアルコールに漬け保存しました。

ウチダザリガニは武利川上流部でも見つかり繁殖区域が広がっていること、在来種のニホンザリガニがいなくなっていることがわかりました。子どもたちは、身の回りの自然が壊されてきていることを知り、行動するきっかけとなりました。



ウチダザリガニの駆除活動は、同好会会員の事前の生態調査からポイントを決め6回実施しました。観光祭りでも開催し、町民やキャンパーに捕獲・観察・試食を行いました。子どもたちでも、簡単に大量に捕獲できウチダザリガニから武利川を守ろうという気持ちでチラシ作りを行いました。チラシは、子どもたちの手からキャンパーへ配布しました。



8月と9月には、アルコールに保管しておいた水生昆虫とウチダザリガニを樹脂の中に封入しました。樹脂のにおいにつけずに作業しました。できあがった標本は、虫の苦手な子もじっくりと観察することができます。3Dで腹部も口などの形状を観察することができます。また取り扱いが簡単でそのまま展示することができます。アルコールに漬けることで変色すること、作成に当たって気泡を入れないようにすることや換気に留意しなければならないことがあります。



今回の事業では、水生生物の調査から外来種の駆除活動まで系統的に学ぶことができました。この活動で、数人だったザリガニをさわられる子も増えました。川の生き物に興味をもつ子も出てきました。「地域の自然の中で生きる子ども」が育ってきています。

今後は地道な調査活動や体験活動を展開するとともに、同好会員が学び広げ、武利川と生態系を保全していく活動を展開していきたいと考えています。

NPO法人丸瀬布昆虫同好会